

平和運動フォーラム石狩地域協議会

平和運動フォーラム
石狩地域協議会

〒060-0806
札幌市北区北6西7

村上 真仁

TEL:011-747-1880

石狩湾新港反対!!



石狩湾新港に入港する米ミサイル駆逐艦「マスティン」

高橋知事は米海軍第7艦隊のミサイル駆逐艦「マスティン」が2月6日から10日まで石狩湾新港に入港を希望した際、外務省から文書で「核搭載能力がな以上、核兵器を搭載してはいない」とい

とに疑いを有しない」との回答を受理し、入港受け入れを決定した。これは核兵器の努力を踏みにじるものであり、米艦船の「親善及び友好」を口実にした北海道における民間港の軍事的利用は断じて認めざるものではないとして、北海道平和運動フォーラムは

連合北海道とともに、2月6日、入港反対集会を開催した。早朝から開催された集会には多くの参加者が結集し、入港して来た「マスティン」に向けて「北海道からでていけ」とシュプレヒコールを行い、続いて連合北海道石狩地域協議会、平野事務局長から経過報告を受けた後、集会アピールを採択した。

冒頭、主催者を代表し、後宮敬爾・札幌北光教会牧師氏はいささつで、「ファシズムが世を覆うことのないように、我々は警告し子どもたちに伝えていかなければならない。良心と自由の見張り役として、本当に豊かで自由な社会の到来をもにめざしていきたく」と決意を述べた。続いて講演では、

2月18日、かでの2・7において、全国一斉・さようなら原発1000万人アクションIN北海道が開催され、一般市民を含めて、約1000名が参加した。会場には参加者があふれ、入りきれない

ら原発を言うには、生活の工夫でエネルギー消費を縮小しなければならぬ」と述べ、「企業や、北電、国をせめるだけではだめだ。原発をなくすには自身の覚悟が必要だ」と国民市民の意識改革も強



脱原発を市民に訴える参加者

「建国記念日」の2月11日、札幌市・共済ホールで靖国共闘会議は「第35回紀元節復活反対2・11道民集会」を開催し、一般市民も含めて、約500人が参加した。

冒頭、主催者を代表し、後宮敬爾・札幌北光教会牧師氏はいささつで、「ファシズムが世を覆うことのないように、我々は警告し子どもたちに伝えていかなければならない。良心と自由の見張り役として、本当に豊かで自由な社会の到来をもにめざしていきたく」と決意を述べた。続いて講演では、



2.18 北海道集会

原発阻止
一人一人が立ち上がることが大切

参加者も多数出た。冒頭、呼びかけ人である北大名誉教授小野有五氏ら3名が発言し、その一人でもある作家の倉本聰氏は、「『さようなら原発』を言うには、

調した。全国アクションからは、鎌田慧（かまたさとし）氏が駆けつけ、「本気でやっている。署名も400万しか集まっていない。現在多くの団体に呼びかけを行っている。労働組合の動員は、一人一人が原発を止

めようと立ち上がる必要がある。1000万人署名とあわせて成功させる。みなさん一緒にがんばりましょう」と訴えた。その後、被災地福島からの現地報告では、飯舘村から相澤卓見氏が、「現地には情報がまったくなかった」と当時の状況を語り、避難住民として札幌に住む宍戸隆子氏は「明日は我が身だと考え、泊をとめてほしい」と強く訴えた。最後に「北海道から発信します。

さようなら原発」との集会アピール採択して終了した。デモ行進では、「福島の事故を繰り返すな！子どもたちを放射能から守ろう」とシュプレヒコールを行い、街頭の市民に脱原発を訴えた。

○事務局だより○
まもなく日本の原発がすべて停止するかも知れません。「果たして本当に原発は必要なのか？」日本中がしっかりと検証していく必要があるのではないのでしょうか。あの日を忘れないために…(む)

「沖繩を差別する」この国からの自立を」と題して、元沖繩県副知事の吉元政矩氏が、沖繩復帰前からの活動に触れながら、沖繩県民の米軍基地撤去への切実な思いと経過を語った。その後、各自自治体首長と議会議長に宛てた「日本国憲法の尊重・擁護に関する要請書」と、集会決議を採択し終了した。



多くの参加者が学習を深めた